2017年度 『乳房再建に関するアンケート調査』 結果報告書

2018年5月21日

●この調査について	
●第1部 調査結果のサマリー	3
I. 調査結果の概要	4
Ⅱ. 記述式回答の概要	6
●第2部 調査結果	8
Ⅲ.基本データ	9
IV. 記述式回答	39

企画・調査・分析 NPO法人 エンパワリング ブレストキャンサー (E-BeC)

※本報告書の内容の無断転載・複写はご遠慮ください。内容を引用する際には必ず出典を明記してください。

●この調査について

調査の概要

NPO法人エンパワリング ブレストキャンサー(以下E-BEC)が2013年から調査を開始した、『乳房再建に関するアンケー ト調査』2017年版の結果を報告いたします。

この調査は、「乳房再建手術」に対する認知や理解の向上をはかることを目的に、「乳房再建手術」の経験者を含む乳がん 患者さんたちの意識を把握するために実施しているもので、今回で第5回目の調査結果報告となります。

ここに報告する調査結果は、E-BeCが2017年中に開催した以下の4つのセミナーにおいて、参加者を対象に実施したアン ケート調査の回答をまとめたものです。4会場の参加者は合計500名、うちアンケート調査協力者は445名で、回収率は 89.0%。このうち乳がん経験者は373名でした。

	第10回 乳房再建全国 キャラバンin広島	第3回 E-BeC特別セミナー	第11回 乳房再建全国 キャラバンin宮城	ジャパン・ キャンサーフォーラム※	
	2017年2月18日	2017年6月4日	2017年11月19日	2017年8月20日	
	広島市	東京	仙台市	東京	
参加者数	73名	173名	142名	112名	500名
アンケート協力者	60名	154名	128名	103名	445名
乳がん患者数	50名	133名	102名	88名	373名
対参加者比率	83.3%	86.4%	79.6%	79.6%	83.8%

[※]E-BeCがNPO法人キャンサーネットジャパン(以下CNJ)と共同開催したセミナー。この数字には、別途CNJが開催する 「乳房再建スモールミーティング」の会場で回収した調査票分も含んでいます。

なお、本調査における特筆事項として、以下の点にご留意ください。

●「乳房再建手術」に関心のある人々が対象

E-BeCが開催する『乳房再建全国キャラバン』および『特別セミナー』の参加者は、「乳房再建手術」に関心を持つ乳がん 経験者、乳房再建手術の経験者、およびそのご家族が中心で、「乳房再建手術」に関する情報を比較的豊富に持って いる人々と考えることができます。このため本調査結果は、広く一般の意識を代表するものではありません。

●地域の偏り

『乳房再建全国キャラバン』は全国各地での開催をめざしており、2017年に関しては広島市と仙台市という、中国地方 ならびに東北地方の中核都市での開催となりました。また『特別セミナー』と『CNJとの共催セミナー』は東京都内での開催 であり、2017年調査の回答は、大都市部とその近郊の在住者からのものが多くなっていると考えられます。

なお、毎回の調査都市が異なるため、同じ設問について調査年ごとの違いが生じていても、それが地域ごとの調査対象の 意識差を反映したものなのか、あるいは時代や環境の推移に伴う意識変化を反映するものなのかまでは判断できません。

今回調査も、前回までと同様の層を対象に、ほぼ前回の設問を踏襲する形で調査を行いましたが、全体として前回2016 年中に実施した調査の結果と比べてあまり大きな変化はありませんでした。

ただ、前回調査でも感じられたことですが、「乳房再建手術」に対する患者さんたちの知識量は増大しており、特に最近にな って乳がんに罹患した人ほど、乳がんで乳房を失うことへの不安感は低く、費用面での悩みも少ないなど、「乳房再建手術! について知っているということが、乳がん患者さんたちにある種の心強さを与えていることがわかります。本調査の限りではありま すが、乳がんと同時に再建する人の比率も年々増大しており、「乳房再建手術」の存在意義が広く認識されるようになってい るものと思われます。

一方で、知識が増えることによる不安も大きくなっているようで、「合併症」を恐れる人も依然多く存在します。また、周囲や職 場に再建手術に対する理解がなく、人に言えない、仕事を休みにくいという声も散見されました。患者さんのレベルでは「乳房 再建手術 |に対する認識は深まっても、まだまだ社会全般にまでは広がっていない様子がうかがわれ、広範な情報提供のあ り方がひとつの課題となっているといえそうです。

おかげさまで、今回も多くの方々の「乳房再建手術」に対する意識を知ることができました。この調査結果が、「乳房再建手 術」を実施する医療機関ならびに医療従事者、また乳がんや乳房再建に関連する商品・サービスを取り扱う企業の活動に 寄与するものとなり、「乳房再建手術」のよりよい環境づくりやさらなる理解の拡大、ひいては乳がん患者さんのOOL(生活の 質)の向上に結びついていくことになれば、私どもとしてもこれに勝る喜びはありません。

最後になりましたが、本調査の実施にあたりまして、専門的見地からデータ解析にご協力とご助言を頂戴した㈱統計社、そ してアンケート調査にご協力いただきましたすべてのご回答者の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

2018年5月

NPO法人 エンパワリング ブレストキャンサー理事長 真水美佳

●第1部 調査結果のサマリー

I. 調査結果の概要

《 今回調査結果の総括 》

●乳がん手術で乳房を失っても、「生命が助かるならやむを得ない」「まずは治療に専念」

乳がん手術で乳房を失うことの不安については、「命が助かるならやむを得ない」、「まずは治療に専念しようと思った」の2項目 について、いずれも5割以上の人がそう回答している。多くの人が罹患の事実を冷静に受け止め、治療と向き合おうとしている。 子どもの有無の別でもこの傾向は変わらないが、「女性でなくなるような気がした」という回答は子供のいない人のほうが若干多く、 "女性性"の喪失への不安が大きい傾向がみてとれる。

●最近の乳がん罹患者ほど低い、乳房を失うことへの不安感

乳房を失うことの不安について乳がん罹患別に尋ねると、最近乳がんになった人ほど「再建手術があるので不安はなかった」と回 答する率が高く、乳房再建に関する情報の周知が影響しているとも考えられる。

●乳房を失ったことによるこころと身体の変化は実に多種多様

乳房を失った後のこころと身体の変化では、「温泉やジムに行けなくなった」、「合う下着がなく困った」、「痛みが残った」という人 が多く、「精神的に不安定になった」という人も多い。こうした悩みへの解決に「乳房再建手術」が果たす役割は大きいと思われ る。

●乳がん手術と同時に再建する人が年々増加

乳がん手術から再建手術(ティッシュエキスパンダーの挿入を含む)までの期間について、7割近い人が「同時」と回答。2014 年からの4回の調査を通して、この比率は目に見えて増えている。乳房再建に関心の高い人を対象とした調査ではあるが、乳 房再建までを視野に入れて乳がん手術を受けることが一般化してきている状況がうかがわれる。 術式の別では、5割強の人がイ ンプラントによる再建である。

● 二次再建では半数が乳がん手術から2年以内に再建

乳がん手術から時間をおいて再建する「二次再建」では、5割強の人が2年未満で再建手術を受けている。

●一次再建は「インプラント」、二次再建は「自家組織」の人が多い

再建の時期と再建手術の術式を比較すると、一次再建の人の60%が「インプラント」、二次再建の人の45%が「穿通枝皮弁」 をはじめとする自家組織による手術を受けている。

●再建手術を受ける前の相談相手は「夫」・「家族」

再建手術を受けるにあたって相談する相手はまず「夫」や「夫以外の家族」で、「知人・友人」より多い。再建手術を受けるに際 しては、入院の期間・費用の問題や本人への精神的な支えなど、家族で向き合うべき部分も多く、家族が再建手術を理解す ることの重要性を示唆しているといえそうだ。

●再建に際して最も重視するのは医師との信頼関係と実績

乳房再建手術を受ける時に考慮するのは、「医師との信頼関係」、「医師の実績」、「自家組織・人工物の別」が高く、これに 「費用」が続く。何よりもまず信頼できる医師に任せたいという気持ちが強いことがわかる。

●最近罹患した人ほど関心が高い「自家組織」と「人工物」の選択

手術に際して考慮することについて、乳がん罹患時期別にみると、2014~2017年に罹患した人は「自家組織・人工物の別し への関心が高く、2013年以前では「医師との信頼関係」を第一にあげる人が多い。逆に「費用」については、最近罹患した人 ほどこれを重視しなくなる傾向が高い。2013~14年にかけてインプラントによる再建手術が健康保険の適用対象となったことと 関連性があるかもしれない。

●乳房再建に望むのは「整容性」と「安全性」

乳房再建にあたって望む条件として、トップにあがったのは「左右のバランス」と「安全性」である。前回2016年調査では「安全 性」が群を抜いて多かったが、今回は見た目が整っていること(整容性)を重視する人のほうが多かった。

●再建のハードルとなる「合併症」と「再度の手術」への不安

乳房再建の大きなハードルになることとして、「合併症」、「再びからだを傷つけたくない」、「入院で長期間仕事が休めない」が上 位に入った。子育てや家族の世話、あるいは職場の無理解を理由に長期間入院が難しいという人は少なくないようだ。また、二 次再建の人に「費用」や「周囲の反対」をハードルと考える人が多い傾向があり注目される。

●病院では、経験者の話を聞き症例写真を見る機会がほしい

病院でほしかったサポートでとして、「再建手術経験者の話を聞く機会」、「主治医の術例写真をみる機会」、「アドバイスがもら える看護師の存在」をあげる人が多く、これらの項目は毎回の調査で上位にあがっている。

●手術を受ける際の納得度と手術後の満足度には強い相関

十分納得して再建手術を受けた人ほど、手術に対する満足度が明らかに高い。逆に、あまり納得できないまま再建手術を受け た人では、45%近くが手術結果に満足していない。

● 再建してよかったこと、よくなかったこと

再建手術をしてよかったと思うことは、「精神面の不安定さがなくなった」、「温泉やジムに行けるようになった」、「コンプレックスがな くなった」、「おしゃれができるようになった」など、女性として自信をもって手術前と同じような生活ができるという点に尽きる。 逆によくなかったことは、「エキスパンダーが痛い」、「胸の形や乳房の左右バランスが悪い」、「合う下着がない」、「痛みが残った」と いう人が多い。インプラント入れ替えまでの一時的なことではあるが、4人に1人がエキスパンダーの痛みをあげている。また、痛み や腕のしびれなど手術に伴う不具合は一次再建の人に、仕上がりへの不満は二次再建の人に多い傾向がみられる。

-以上-

Ⅱ.記述式回答の概要

本調査では、自由記述式の設問において「乳房再建手術」に対する意識の聞き取りも行っている。

以下はそこから浮かび上がってきた傾向を整理してみたものだが、今回比較的目立っていたのが、乳房再建の普及や技術 革新に伴って、いっそうの環境の整備や社会的な意識の変化を求める意見である。具体的には、

- ①脂肪注入をはじめとするあらゆる術式が保険適用の対象となってほしい
- ②再建手術を理由に仕事を休みにくいので、乳房再建までが乳がん治療だという認識が広がってほしい
- という内容の記述が目立っていた(記述式回答の内容は、本報告書P.39以降の「IV.記述回答」に掲載)。

①から推測されるのは、セミナー参加者は総じて新しい情報に敏感であり、セミナーの講演でも、脂肪注入など乳房再建に おける最新技術と、その普及に伴う課題として保険適用の話題に触れられる機会が多いため、参加者の間にもこうした点へ の関心や問題意識が醸成されている可能性があるということである。

「乳房再建手術」では、整容性(見た目の美しさ)を高めるための付随的な手技も含め、さまざま手術方法が用いられる が、そのすべてが保険の適用対象になっているわけではない。左右の形や大きさのバランスを整えるために行う健側乳房の豊 胸/縮小手術や、乳頭・乳輪の再建手術におけるタトゥーによる着色、そして昨今注目を集めている脂肪注入による乳房再 建などは現在のところ保険の適用対象外にあり、患者さんが負担する医療費も大きい。参加者においても、最新技術を駆 使した再建手術を廉価かつ安全に受けたいという意識は、今後ますます強まっていくと考えられる。

一方、②の背景にあるのは、「乳房再建手術」は美容整形に近い"ぜいたくなこと"という意識が患者さんにもその周囲にも根 強いという現実的な問題だ。そのために堂々と病休を取るのが難しいという声が目立ったのが今回の一つの特徴である。これ は乳房再建をめぐる古くて新しい課題であり、啓発を進めるうえでの見えざる障害ともいえる。

セミナー参加者には、乳房再建について一定の知識や関心を持ち、新しい情報にも意欲的に接する人々が少なくないことや、 セミナーの講演でも新たな技術の紹介や直近の課題について触れられる傾向があるため、アンケートの回答もそのときの最新 トピックやそれに対する参加者の意識を反映した内容となる。その意味では、アンケート調査において得られる自由回答には、 現在わが国における「乳房再建手術」が直面する課題や、それに対する患者さんたちの考え方や意見、希望等を映し出す ものといえ、こうした声を注視し続けていくことには大きな意義があるものと思われる。

《 記述式回答の概要 》

●「乳房再建手術」に対する意識や認識の変化(セミナーに参加したことで)

- ・再建手術に対して抱いていた不安や怖さが軽くなった。
- ・温存がベストだと思っていたが、全摘してもQOLは変わらないと感じた。
- ・妻が乳がんと診断されいろいろ勉強している。家族もよく理解することが必要だと感じた。

●再建手術に関する悩み、不安や迷い

- ・エキスパンダーを入れている時間が長くて気分が落ち込む。
- ・手術に伴う痛みがどれくらいなのか不安。
- ・入院期間、痛み、費用、子どもへの説明など不安要素が大きく、踏み切れないまま時間が経過している。
- ・予約がなかなか取れないと聞いて、行動することに躊躇している。

● 医療者とのコミュニケーション、事前の情報収集の重要性

- ・乳がん診断直後に再建についての説明がほしかった。病院の中に相談できる場所があればよかった。
- ・医師によって意見が全く異なることがあって戸惑う。
- ・「きれいにできます」と言われたが、きれいさの基準は患者によって異なり、医師にはそこをもっと突き詰めてほしい。
- ・男性医師が多く、女性の細かい心理を理解してもらえずがっかりした。それが淅後の不満につながっている気がする。
- ・手術を受ける医療機関選びのポイントが知りたいが、そうした情報は手に入らない。
- ・乳頭乳輪の再建の情報が少ない。
- ・再建後の症例写真を見せてもらえず、イメージできなかったので温存手術を選ぶことになった。
- ・主治医からあまり具体的な話を聞けなかったため術後がイメージできず、傷に不満が残った。

●再建手術の技術革新や環境整備への期待

- ・乳がん治療が必要になったら、放射線治療や乳房再建の実際について知ることのできる場所や体制を整えてほしい。
- ・再建手術後の患者さんたちが悩みを共有できる場がもっとあってほしい。
- ・がん治療で会社を休むときより病休が取りにくい。他人の目も気になる。再建までががん治療だと知ってほしい。
- ・再建手術は自分のエゴのためと思われそうで、周囲に堂々と言えない。仕事も休みにくい。
- ・放射線の照射後もリスクなく乳房再建ができるようになってほしい。
- ・日本も欧米と同じように、整容性を保つための健側の手術も保険の適用対象になってほしい。
- ・すべての手術(タトゥーも含めて)保険の適用対象になってほしい。
- ・乳房再建は美容整形ではなく治療と位置づけるべき。脂肪注入が保険適用になっていないのは認識がなっていない。
- ・脂肪幹細胞による再建も保険適用になれば再建したい。
- ・どこの病院でも3Dシミュレーターで再建後の胸をみられるようになるといい。
- ・家庭の事情で長期の入院ができない。もっと外来で対応してもらえる部分が増えるといいのだが。

●再建手術を受けてみて(再建経験者)

- ・胸をなくしたときは悲しかったが、再建して女性を取り戻したような感じがして嬉しかった。
- 乳房再建をして、前を向いて再スタートしている。
- ・インプラントで再建したが、時間が経つにつれて左右バランスが悪くなってきた。
- ・インプラントが破損し入れ替えることになった。永久に持つと思っていたが、ちゃんと話を聞いていなかったようだ。

●再建手術への期待(再建未経験者)

・自家組織での再建を希望している。不安はあるが、再建は胸を失う不安を取り除いてくれ、自信をもって生きていけると思う。 子供と温泉に行き、好きなファッションも楽しめるようになりたい。

-以上-

●第2部 調査結果

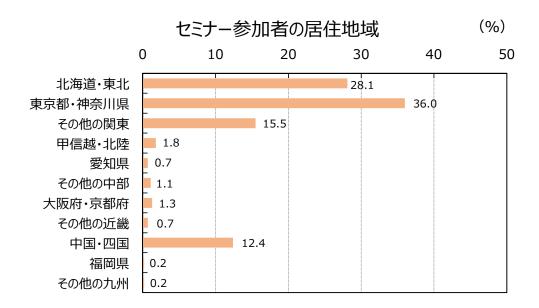
Ⅲ. 基本データ

1. 調査対象の属性

2017年にアンケートに協力していただいたのは445名。うち乳がん経験者は373名(アンケート協力者の83.8%)であった。

(1)居住地域

セミナー参加者の居住地域をブロック別に大きく分けると次の通り。セミナーを開催地(広島市、東京、仙台市[開催場所順]) からの参加者が多いが、その周辺地域からの参加者も少なくない。また、開催場所以外の遠隔地からの参加者もいる。

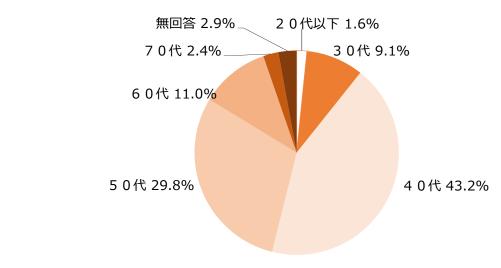


(2) 乳がん経験者の年齢

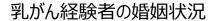
(

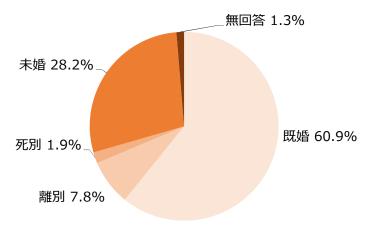
セミナーに参加した「乳がん経験者」を年代別にみると、40代、50代が圧倒的に多く、約3/4を占めている。次に60代が多い。

乳がん経験者の年齢



参加者のうち、「乳がん経験者」の6割は既婚者で、3割弱が独身者である。2016年とほぼ同じ比率である。

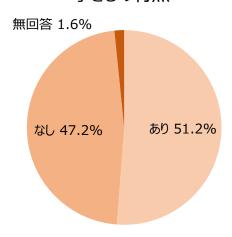




(4) 子どもの有無

「乳がん経験者」の半数は、子どもをもつ女性である。

子どもの有無

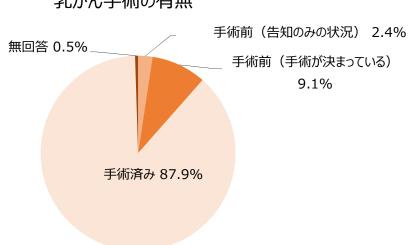


2. 乳がん手術について

※以下は乳がん経験者の回答、表記のない場合は、n=373を100として%を算出

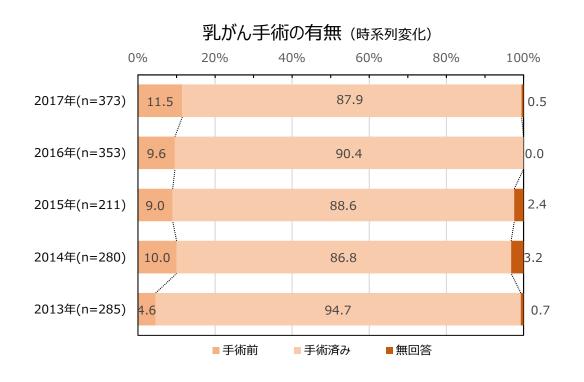
(1)乳がん手術の有無

セミナーに参加した乳がん経験者のうち、乳がん手術を受けている人は9割弱であった。乳がん手術前という人は11.5%で、う ち「手術が決まっている」人9.1%、告知を受けたのみでまだ手術が決まっていない人は2.4%だった。



乳がん手術の有無

セミナー開催の時系列順に、参加者の乳がん手術の有無をみると、2017年は「手術前」の人の参加が少し増えている。

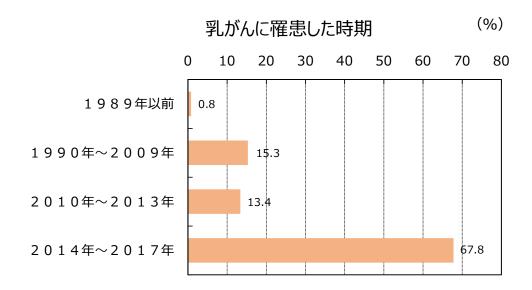


(2) 乳がんに罹患した時期

乳がんに罹患した時期について、乳がん手術の技術的進歩やインプラントの保険適用など、周辺環境に変化があった「技術的 普及分岐点」ごとに分けると、「2014~2016年」が67.8%、「2010~2013年」が13.4%、「1990~2009年」が15.3% となった。セミナーに参加した「乳がん経験者」の7割近くが、近年乳がんになった人である。

「乳房再建手術」をテーマとするセミナーであることを考え合わせると、最近乳がんになった人ほど乳房再建への関心が高く、関 連情報に接したいという意識が強いものと推測される。

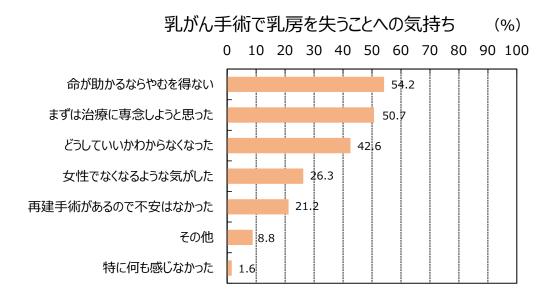
とはいえ以前に乳がん手術を受けた人の関心が薄いとは限らず、乳がんに罹患した当時は再建に関する情報が少なく、再建手 術があることを知らない、または再建に関する情報にアクセスできない状況にあるということも考えられる。



3. 乳房を失うことへの不安感

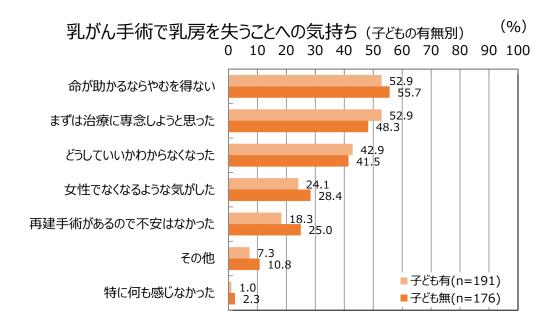
●乳がん手術に際して思うのは「生命が助かるならやむを得ない」「まずは治療に専念」

乳がん手術で乳房を失うことの不安について、前回2016年調査では、「命が助かるならやむを得ない」と感じていた人が6割 弱で他の項目より高かったが、2017年は「命が助かるならやむを得ない 」、「まずは治療に専念しようと思った」の2項目が高く、 いずれも5割を超えている。一方で「どうしていいかわからなくなった」と、心理的に動揺した人も4割強いる。



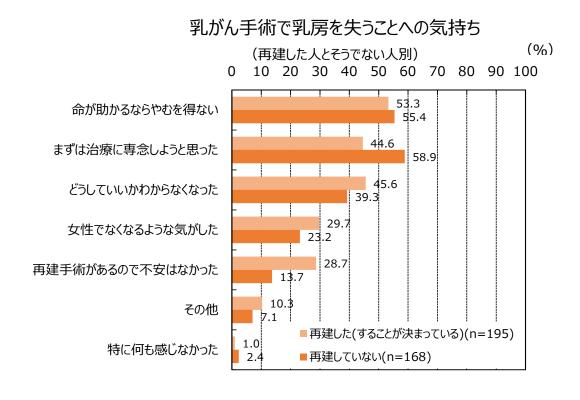
●子どものいる人に高い、がん告知に対する生きることへの意欲

乳房を失う気持ちを子どもの有無別にみると、子どもがいる人は「命が助かるならやむを得ない」、「まずは治療に専念しようと思 った」の2項目が同率で高い。子どもがいない人は「命が助かるならやむを得ない」が一番高く、「まずは治療に専念しようと思っ た」との差が若干ある。2016年は、子供がいない人に「女性でなくなるような気がした」を選ぶ人が多く、子どもがいる人との差が 目立ったが、2017年はどの設問においてもあまり大きな差は見られなかった。



同じく、乳房を失う気持ちを再建した人(再建が決まっている人を含む)と、再建していない人の別でみると次のようになった。 再建していない人のほうが明らかに高いのが、「生命が助かるならやむを得ない」と「まずは治療に専念しようと思った」の2項目 である。逆に再建した人のほうが高いのが、「どうしていいかわからなくなった」「女性でなくなるような気がした」などで、乳がん告知 に伴う不安を感じた人は少くない。「再建手術があるので不安はなかった」を選んだ人も、再建した人の約半分にとどまっている。

この結果だけで判断することはできないが、再建した人のほうが乳房を失うことへの不安心理が総じて強く、逆に再建手術をして いない人は、乳がん告知に際してまずは乳がんを治すことと向き合いたいという気持ちが強く、それだけ乳房再建の優先度が低く なる傾向があるといえそうだ。



乳がん手術で乳房を失うことへの気持ちについての質問で、「その他」を選んだ人の記述回答の内容について、再建をしているか していないかの別で整理したところ次のようになった。あまり明瞭な差異はみられないが、再建の有無にかかわらず、乳がん告知 に際してさまざまな不安心理があったことがうかがわれる。

【再建した(再建が決まっている人を含む)】

- ・ (乳房を) 失いたくなかった
- ・再建手術があると知っていたので、形について不安はなかった
- ・術後の痛みに対する不安
- 人に知られたくない
- ・お金やこれからの仕事のことなどへの不安
- ・人間ではなくなるような感じがした
- ・家族(両親、夫)に申し訳ないと思った
- ・手術はしないと決めた
- ・ショックは受けた
- ・胸を傷つけてまで手術するかどうか悩んだ
- ・乳房切除するなら何もしなくてもいいと思った
- ・ショックと諦めの、行ったり来たりだった
- 死んだ方がマシだと思った。
- ・再建方法を聞いて少し安心した

- ・胸がなくなるのが物理的にこわかった
- 医療が進んでいるので、不安はなかった
- 早くガンを取り除きたいと思った。
- ・再建手術があることは知らなかったが(主治医も教えてくれ ず)、主治医から「乳がんでも、ほとんどの方が人生をまっとう しています」と言われたので胸を失うことに特に不安はなかった
- 再建手術は知っていたが不安はあった。
- ・地方での再建がこれほど大変とは、この時は思っていなかった
- ・死んでもいいから手術したくなかった
- 再建についての詳しい話を聞くことができなかった。
- ・63才で仕事もやめていて、夫も再建には消極的だったので、 ハードルは何もありませんでした
- ・まずは情報。知識を得なければと思った
- 全面的に不安はなかったとはいえない

【再建していない】

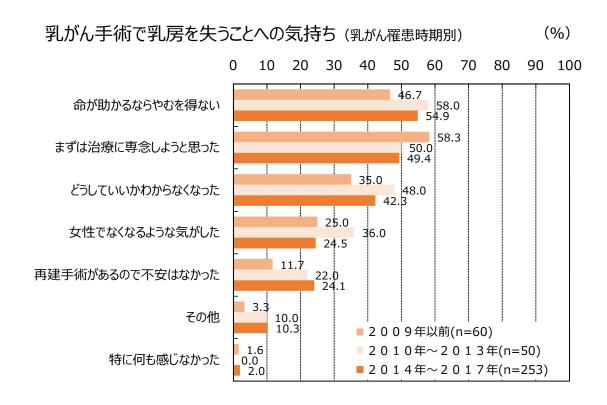
- ・子供の頃、大きい胸がイヤで、なくなればよいと思っていたこと を思い出した
- ・再建手術があると知っていたが、不安でいっぱい
- ・(乳がんで胸を失うなんて)ありえないと思った。
- ・仕方がないと思ったが、とても悲しかった
- ・再建手術を考えていたが不安だった
- ・早くとって欲しいと思った

- 取ったら治ると思った
- ・ (がんになったのが) 夫や子どもでなくよかった
- ・社会性がなくなるような不安
- ・悪いものはとってしまいたいと思っていた。自分の体を見ても悲 しくはならなかった
- 迷った
- ・再建までに外づけの人工乳房を製作した

●最近の乳がん罹患者ほど低い、乳房を失うことへの不安感

乳がんに罹患した時期別に「乳房を失うことへの気持ち」を尋ねると、「2009年以前」の罹患者は、「まずは治療に専念しようと 思った」と回答する率がもっとも高い。「2010年~2013年」と「2014年~2017年」に罹患した人では、「命が助かるならやむ を得ない」の率が高い。「女性でなくなるような気がした」は、「2010年~2013年」の人が他の区分より高く、差がみられる。ま た、前回2016年の調査よりも、各項目の差が若干少なくなっている。

「2014年~2017年」の人が回答者の7割弱を占めており、他の区分の人が少ないため単純には比較できないが、最近乳が んになった人ほど「再建手術があるので不安はなかった」を選ぶ率が高く、乳房再建に関する情報の周知が影響している可能性 はある。

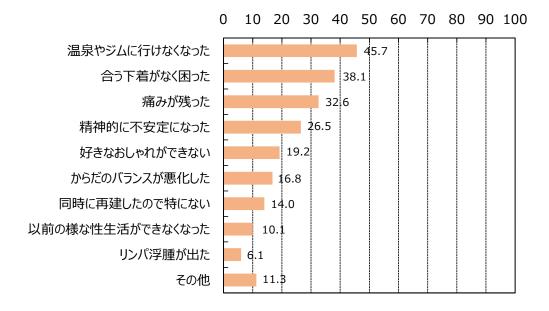


4. 乳房を失った後のこころと身体の変化

●温泉やジムにいけないこと、合う下着がないことが辛い

乳房を失った後のこころと身体の変化では、2016年調査と同様「温泉やジムに行けなくなった」ことをあげる人が多い。続いて、 「合う下着がなく困った」、「痛みが残った」をあげる人が多く、ともに3割を超えている。2016年は、「合う下着がなく困った」、 「痛みが残った」、「精神的に不安定になった」3項目がほぼ同率だったが、2017年度は「合う下着がなく困った」が高くなり、 「精神的に不安定になった」が低くなっている。

乳房を失った後のこころと身体の変化(n=328) (%)



以下に、この質問で「その他」を選んだ人の記述回答の内容を、「精神面」と「身体面」に分けてまとめた。

精神面では、温泉やジムだけでなく、健康診断で心電計をつけるときなど人前で胸を出すときの辛さを訴える声が多く、女性とし て自信をなくしたという人、なかには精神的にかなり大きなダメージを負った人もいる。

身体面では、腕に力が入らない、腕が上がりにくい、体が冷える、しびれる、むくみがちなどの不具合を訴える人が多い。

【精神面】

- 再建について悩まねばならなくなった。
- ・エキスパンダーを入れれば、多少ふくらみができると思っていた のに、"ふくらみ"とまではいえない状態でショックだった
- ・いま入れているエキスパンダーをインプラントに入れ替えた後の 形や感覚がどうなるか分からず少し不安
- ・エキスパンダーがずれてしまったので、かなりショックでした
- ・温泉やジムに行くが、ちょっと勇気がいる
- ・喪失感は少なかったと思うが、女でなくなったと思った
- ・以前から自信なかったのに、さらに自信をなくした
- ・胸の形に不自然さがあると感じた
- ・健康診断などで心電計をつけるときなど、胸を出さなければな らないときに困った
- ・日常生活は全く困らない。想像より、意外と精神的に大丈夫 だった。ただ、乳房はあった方がよいし、周囲に病気のことを話 せないことがストレス。再建すればストレスはなくなるのでは?
- ・術後、入院中に自分の姿をみてシャワー室で倒れ、精神安 定剤をもらい、精神科を受診。相部屋だったが、他の人と話 せなくなった
- ・ジムに行きだしたが、着替えるときはトイレを使っている
- ・温泉やジムに行ったが、周りの目が気になった。自分より周り の方に気を使わせている気がした
- ・循環器科に定期的に受診しており、その都度、心電図をとる のですが、左乳房を皮下乳腺全摘で、左脇から乳房下にか けて大きな傷があり、その傷に沿って心電図端子をつけられる ことに、ものすごく拒否感があります
- ・入浴するたび、鏡を見ると、全摘した右胸にため息が出た

【身体面】

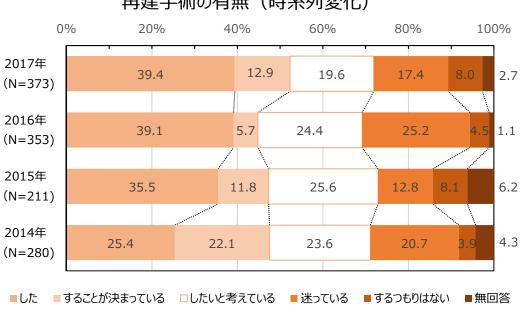
- 仕事をするのに困った
- ・浮腫まではいかないが、むくみがち
- 体の冷えがひどくて、大変だった。
- ・最近、だるさを感じる程度
- ・肩関節が固くなり、腕があがらない(手術直前から四十肩 で、術後悪化)
- ・今までの下着が使えなくなった。
- ・しびれ、日々の生活の中で、思うように物が持てず、不便さを 感じた
- ・腕に力が入りにくくて、仕事に支障がある
- ・胸だけではなく腕の痛みもあり、起きるときや服の脱ぎ着がしん どい
- ・患側をかばいすぎたので、健側の肩が五十肩になり治療に1 年かかった
- ・患側の手でものをサッとつかみにくくなった
- ・術後の上腕の痺れ。患側肩関節の拘縮。ホルモン治療をし た事など、いろいろな不具合が生じた
- ・しびれ、味覚障害が残り、髪が牛えにくい
- ・胸筋を持ち上げたかたちでインプラントが入っていることによる 半身の不具合
- 手術のためではなく、仕事がらのせいかもしれないが肩こりがひ どい

5. 乳房再建手術について

(1)乳房再建手術の有無

「乳房再建手術をすでにした」人は39.4%で、参加者の4割近くは手術経験者であった。

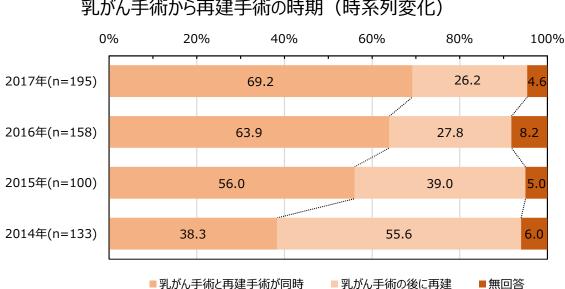
「手術をすることが決まっている」は12.9%。まだ手術をしていない人のうち、「したいと思っている」人は19.6%、「迷っている」人 は17.4%で、4割近い人が手術に対する関心や迷いを持ちながらセミナーに参加してきていることがわかる。



再建手術の有無(時系列変化)

(2) 乳がん手術から再建手術の時期

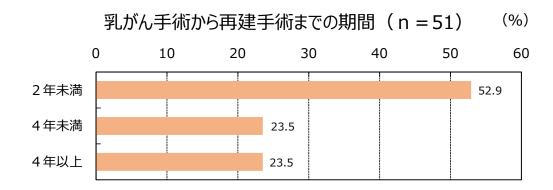
乳がん手術からどのくらいの期間をかけて再建手術をしているのか調べると、2017年は約7割の人が「乳がん手術と再建手術 が同時」(一次再建。エキスパンダー挿入手術を含む)と回答している。2014年の38.3%、2015年56.0%、2016年 63.9%より増加し、本調査の限りでは、一次再建を受ける人の比率が年々増えている。



乳がん手術から再建手術の時期(時系列変化)

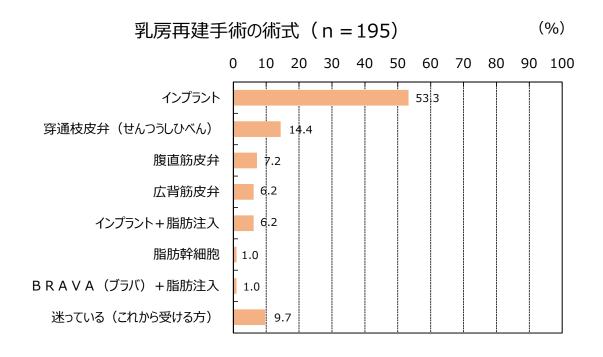
(3) 乳がん手術から再建手術までの期間(二次再建をした人)

乳がん手術の後、時間をおいて再建手術した人に、どのくらいの期間をおいて乳房再建手術をしたかを聞くと、5割強の人が 「2年未満」と回答している。

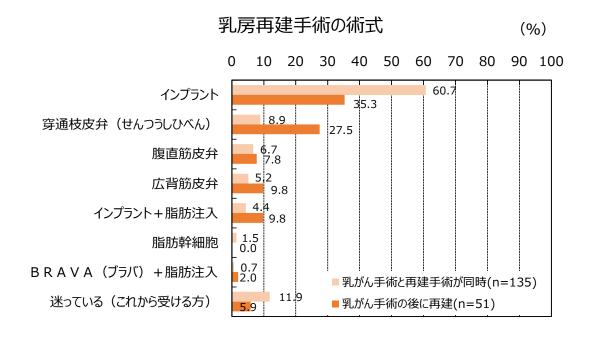


6. 乳房再建手術の術式について

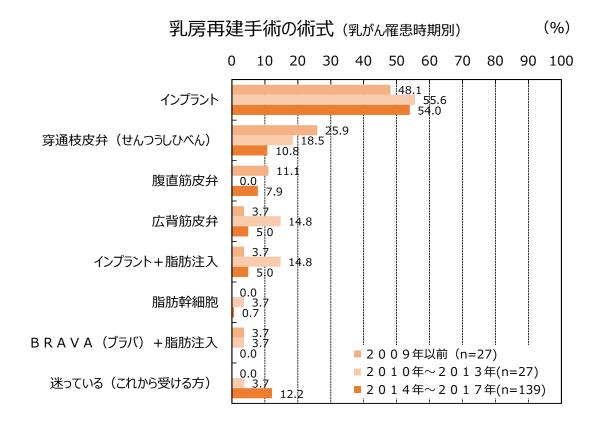
乳房再建手術の術式としては、「インプラント」という人が圧倒的に多く、5割強にのぼる。次に「穿通枝皮弁(せんつうしひべ ん)」が多く、これに「腹直筋皮弁」、「広背筋皮弁」が続く。また、インプラントに「脂肪注入」を併用する人も6%強いる。 新しい術式である「脂肪幹細胞」による再建や、体外式エキスパンダー「BRAVA(ブラバ)」の装着と「脂肪注入」を併用して 再建を行った人は、調査時点ではいずれも 1%にとどまった。 (※調査時点では、陰圧をかけて乳房を膨らませる体外式エキス パンダーとして「BRAVA」が主に用いられていたため、ここでは体外式エキスパンダーのこととして「BRAVA」の名称を使用した)。



乳房再建手術の術式を再建手術時期別に比較すると、「インプラント」は乳がん手術と再建手術を同時に行った人に多い。 「穿通枝皮弁」は、乳がん手術から時間をおいて行う二次再建の人に多くなっている。二次再建で「インプラント」を選んだ人が 35%であるのに対し、「腹直筋皮弁」や「広背筋皮弁」などの自家組織による再建を受けた人の合計は45%である。



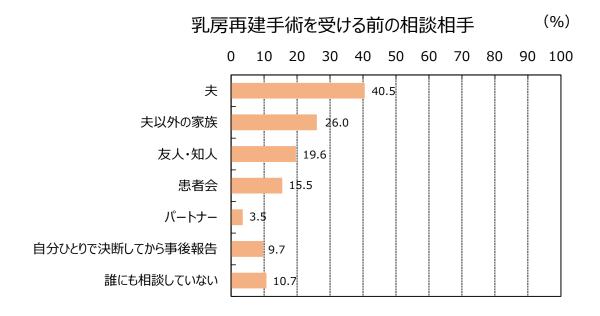
乳房再建手術の術式を乳がん罹患時期別にみると、「インプラント」では乳がん罹患時期別の差は少ない。「穿通枝皮弁」は、 「2009年以前」が多く「2014年~2017年」では少なくなっている。



7. 乳房再建手術の相談相手

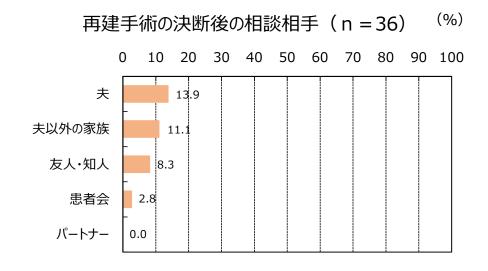
(1) 手術前の相談相手

乳房再建手術の相談相手としては「夫」、「夫以外の家族」、「友人・知人」の順で多い。2015年、2016年調査と同じである。 「誰にも相談していない」人は1割、「自分ひとりで決断してから事後報告」した人も1割いる。



(2)事後に報告した相手

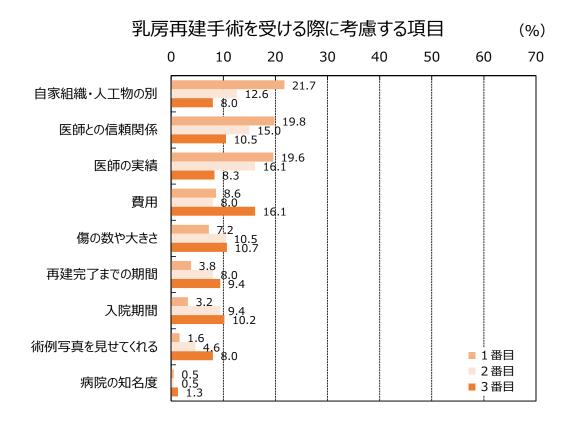
「自分ひとりで決断してから事後報告」をした人は回答者全体の1割弱で、報告した相手は「夫」がもっとも多い。次には「夫以 外の家族」が多く、手術前の相談相手と同じ順番である。(サンプル数が少ないので%は参考)



8. 「乳房再建手術」を受けるに際して考慮すること

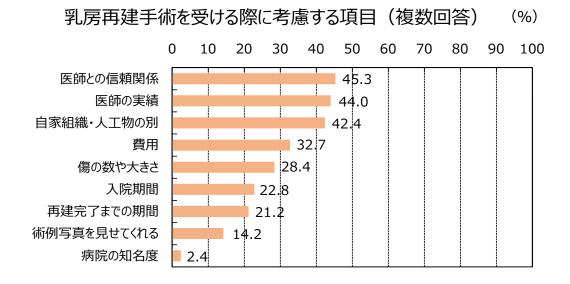
乳房再建手術を受ける際に考慮することとして、1番目に重要だと思ったことは「自家組織・人工物の別」、「医師との信頼関 係」、「医師の実績」の順で高い。この3項目の差は少ない。ただし2016年調査では「医師の実績」が一番高かったが、2017 年調査では「自家組織・人工物の別」を考慮する人の率が増え、少し傾向が変わっている。

また、選択肢内での優先順位は落ちるが、「費用」も考慮すべきポイントのひとつと捉えられていることわかる。



●最も重視するのは医師との信頼関係と医師の実績

乳房再建手術を受ける時に考慮する項目を複数回答としてまとめると、「医師との信頼関係」、「医師の実績」、「自家組織・ 人工物の別」が高く、それぞれ4割を超えている。これに「費用」が続く。



2017年度『乳房再建に関するアンケート調査』結果報告書 23

前記にあげた項目以外で、乳房再建手術を受ける時に考慮する項目について自由記述で尋ねたところ、下記のような意見が あがった。

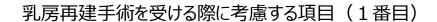
目立って多いのが「安全性」で、同様に術後の「痛み」「違和感」「身体への影響」「日常動作への影響」などを心配する声もあ るように、再建手術が安全に受けられるかどうか、身体面で術後の生活にどれだけ影響があるかが気になる人が多いようだ。 2016年調査では「医師からの十分な説明」をあげる人が多かったが、2017年調査においては、調査対象者の関心が安全性 や身体への負担に移っている。

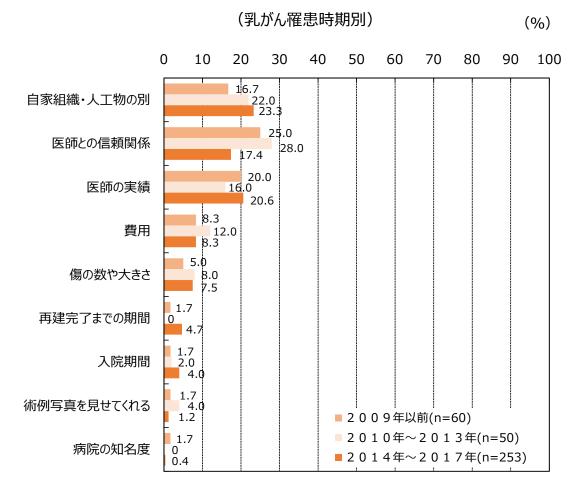
- ・アフターフォロー
- ・説明
- ・痛みの程度
- ・手術までの待機日数
- ・医師の実績
- ・医師との信頼関係
- ・痛みや違和感、術後の体調
- ・手術の説明、術後のメンテ
- ・完成度
- 手術の回数(メンテナンスを含む)
- ・安全性、術後、痛みがないか、など
- ・安全性、身体に与える影響、インプラントの場合は、ダイレクト に対する不安
- ・手術前に日常動作で手術後に出来なくなることや注意するこ との説明
- ・手術後に運動がどの程度できるか
- ・再建の仕上がり、再建後のケア

- ・ライフスタイルに合うかどうか
- ・自分と合う医師の見つけ方
- ・デメリットの説明
- 失敗しないか
- 家族(夫)の意見
- ・手術の経過
- ・術後の生活の快適性や不具合
- 仕上がりのきれいさ
- 身体に負担が少ないこと
- ・再建手術後に仕事に戻れるか
- ・身体への影響
- ・出来上がり
- ・反対側の肩こり
- ·合併症
- ・楽にできる
- ・実際の再建患者からの情報

●最近罹患した人ほど関心が高い「自家組織」と「人工物」の選択

乳房再建手術を受ける際に考慮する項目の1番目に重要だと思うことについて、これを乳がん罹患時期別にみると、罹患時期 が「2014年~2017年」の人は「自家組織・人工物の別」が一番高いが、「2009年以前」、「2010年~2013年」の人は 「医師との信頼関係」を1番目にあげる人が多い。

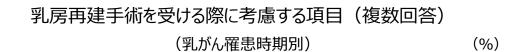


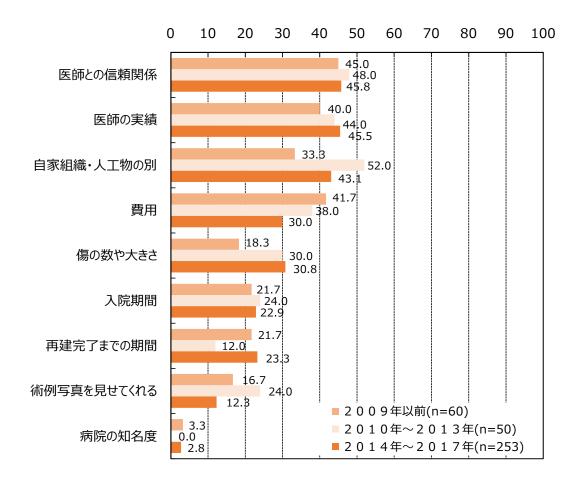


●「費用」は次第に気にされない傾向に

これを複数回答でみると、比較的目立った差が出たのが「自家組織・人工物の別」で、理由は判然とはしないが、乳がん罹患 時期「2010年~2013年」が他の区分より高い。

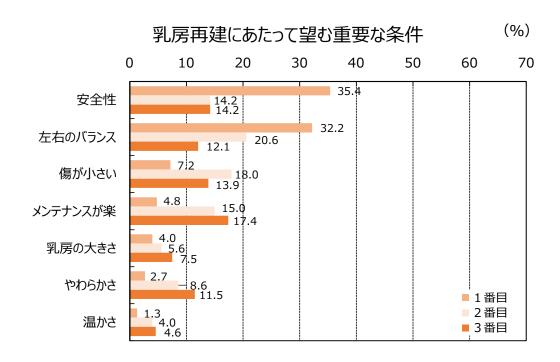
また、複数回答では「費用」を重要視する人が多いが、これを罹患時期別でみると年々その重要度は低くなっている。2013~ 14年にかけてインプラントによる再建手術が保険の適用対象となり、患者さんの費用負担が減ったこともその一因かもしれない。





9. 乳房再建にあたって望む条件

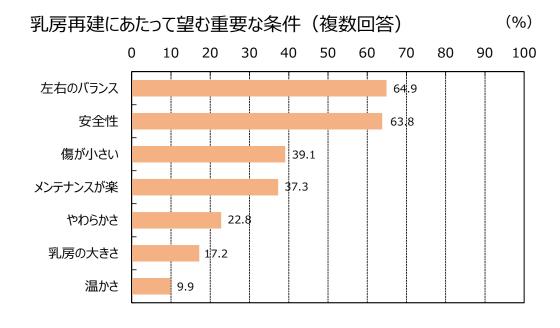
乳房再建にあたって望む1番目の重要な条件は「安全性」、次いで「左右のバランス」である。この2項目が際立って高い。



●まず重視される「整容性」。次いで安全性を重視

これを複数回答でみると、「左右のバランス」と「安全性」がいずれも6割強となった。

前回2016年調査では、「安全性」をあげる人が8割近く、「左右のバランス」が約7割だったのと比べると、今回調査では「左右 バランス」すなわち整容性を重視する人がやや勝った形である。



前記にあげた項目以外で、乳房再建にあたって望む条件で重要だと思うことについて自由記述で尋ねたところ、と下記のような 意見があがった。回答のほとんどが40~50代の参加者からのものであったことと関係があるのかもしれないが、整容性もさること ながら、経年変化や将来にわたる身体への影響を気にする声が散見される。

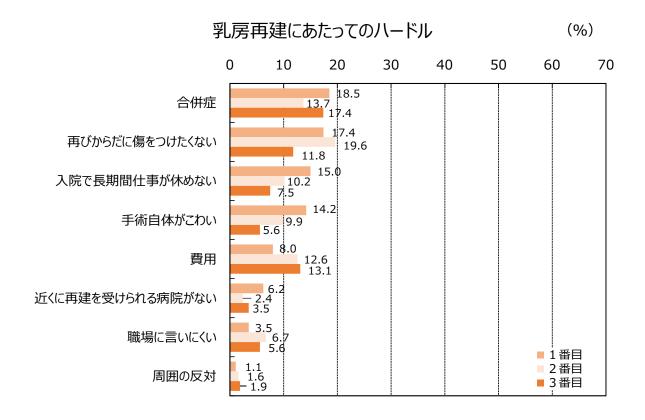
- ・放射線照射に伴う影響がないこと
- ・術後に不具合が起きないこと
- ・将来にわたる身体への影響がないこと
- ・体全体のバランス
- ・整容性。きれいな仕上がり
- ・痛みと体への負担の少なさ
- 異物感のないこと
- 違和感のないこと
- より自然なバスト
- 傷あとが目立たないこと
- ・経年による変化に耐えられること
- ・リンパ浮腫が起きないこと
- デコルテの美しさ

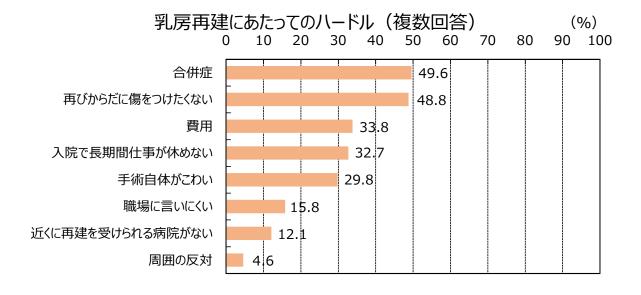
10. 乳房再建を考えるにあたりハードルになること

●「合併症」と「再度の手術」への不安が再建手術への大きなハードル

乳房再建にあたってもっとも大きなハードルになることとして、「合併症」、「再びからだを傷つけたくない」、「入院で長期間仕事が 体めない」が上位に入り、「手術自体が怖い」が続く。2番目のハードルとしては、「再びからだを傷つけたくない」が多い。

「費用」については、1番ではないが、2番目、3番目のハードルになるいう人が多く、乳房再建を考えるにあたっては、まず手術そ のものの安全性や傷のこと、仕事への影響などが重大な関心事となっていることがうかがわれる。複数回答も同様の結果である。

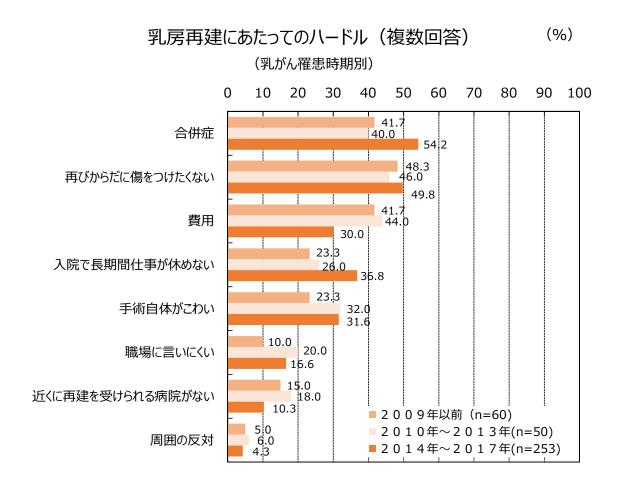




●最近罹患した人ほど強い「合併症」への不安

再建手術のハードルとなっているものについて(複数回答)、乳がん罹患時期別にみると「2014年~2017年」の人は「合併 症」を一番にあげ、「2009年以前」、「2010年~2013年」の人は、「再びからだを傷つけたくない」を一番にあげているいて、若 干の違いがみられる。

「費用」については「2009年以前」、「2010年~2013年」の人が高く、「2014年~2017年」の人はそれに比べると高くはなく、 逆に「入院で長期間仕事が休めない」が高くなっているのが特徴的だ。

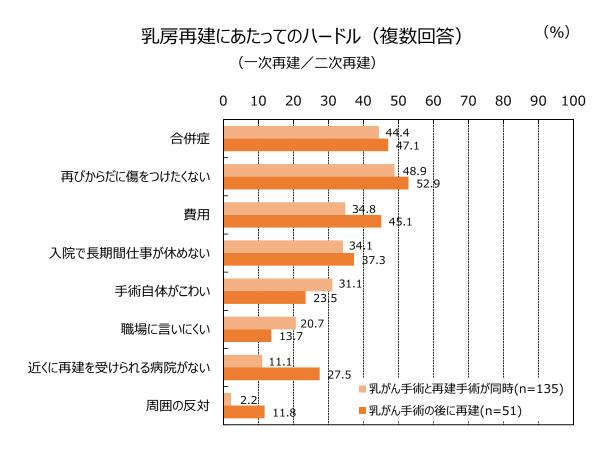


●二次再建の人に多い、費用面や周囲の無理解の悩み

再建手術にあたってのハードルとなるものについて、一次再建と二次再建の別にみると、明らかな差が出たのが、「費用」、「近く に再建を受けられる病院がない」および「周囲の反対」である。いずれも、二次再建の人にこれらの項目をあげる率が高い。

推測の域を出ないが、乳がん手術から数年をおいて二次再建を行う人も多く(2017年調査では調査対象の4分の1が二次 再建で、うち5割近くは2年以上の期間をおいて再建手術を受けている)、乳房再建について改めてじっくり考える段になって、 上記のような課題と直面しやすいものと思われる。

また二次再建の人には、「仕事で長期間仕事が休めない」、「周囲の反対」をあげる人が多く、費用や医療機関へのアクセスの 問題に加え、「乳房再建手術」が乳がん治療の一環であるということについての理解や認識がまだまだ十分に広がっていない実 態がうかがわれる。



前記にあげた項目以外で、乳房再建にあたってハードルとなったことについて自由記述で聞いた結果を、再建手術済の人と、再 建していない人(「したいと考えている」「迷っている」「するつもりはない」人)に分けてみた。

共通してみられるのが、家族の世話などを理由に長期間家を空けられないという声だ。また職場など周囲の無理解をあげる人も 少なくない。周囲の無理解をハードルと感じる人は、この調査の限りでは50代の回答者に多かった。

これらの回答、とくに再建完了(メンテナンスを含め)までの期間の長さを指摘する声は、再建手術をしていない人に多く見ら れ、再建するかどうかを決める際の重要な検討項目となっていることがうかがわれる。

【再建手術をした(することが決まっている人を含む)の人と手術をしていない人による分類】

◎再建した

- ・最も良いと思われる術式の選択
- ・他の持病(受けられる手術に制約がある)
- ・身体への負担(麻酔への不安)
- ・親の介護で、長く家をあけられない
- ・術後の生活変化への不安
- 痛みへの不安
- 再建を人に知られたくない
- ・手術後の仕事探し
- ・再建方法の選択について、適正なガイドラインがない
- ・職場の無理解(美容整形と誤解されている)
- 再建後のトラブル
- ・身近に再建経験者がいない
- ・長期間家を空け家族の世話ができなくなること
- 年齢(その年でするの?と言われたりすること)
- ・子どもの面倒をみてくれる人がいない

◎再建していない

- ・他の持病の治療との兼ね合い
- ・メンテ等で何度も通院する間、家族に負担がかかる
- ・再建が終わるまでの期間が長いこと
- ・主治医の反対(再建は治療が全て終了した後にと言われて いる)・子供が小さいので長期入院ができない
- ・乳がんの転移があるので、その影響への不安
- ・痛み・違和感
- ・再建完了までの時間が長い
- ・自身の精神面。サイボーグになったよう
- ・正確な情報の不足。相談先もわからない
- ・再建に対する周囲の無理解
- ・再建後どうなるかの不安
- ・乳腺外科医の無理解 (胸の小さい人に再建は不用と思われている)

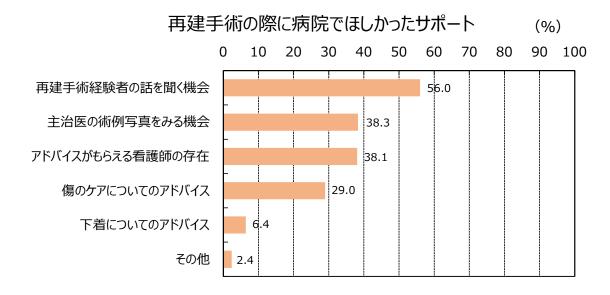
11. 病院でほしかったサポート

●病院では、経験者の話を聞き、症例写真を見る機会がほしい

病院でほしかったサポートでは、半数以上の人が「再建手術経験者の話を聞く機会」をあげている。次いで、「主治医の術例写 真をみる機会」、「アドバイスがもらえる看護師の存在」がほぼ同率で続く。

注目しておきたいのは、本報告書の「8.「乳房再建手術」を受ける際に考慮すること」(P23)では、「症例写真を見せてく れること」をあげた人は14.2%(複数回答)であったのに対し、病院でほしかったサポートに限定した本設問に対しては、4割 近い人が症例写真をみる機会を求めていることだ。

質問のしかたの違いによるものとはいえ、これから再建手術を受ける患者さんたちの多くが症例写真を見せてほしいと考えている ことがわかる。



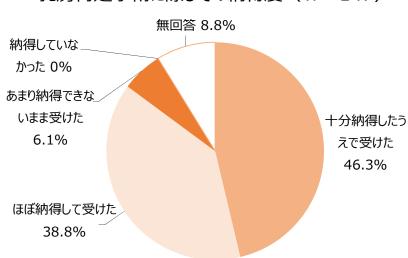
病院でほしかったサポートについて、前記の項目以外に自由記述では次のような声がみられた。

- ・メンタルケアのアドバイス
- ・医療費や保険の相談
- ・悩んでいるときからの継続的な精神面の支え
- ・シリコンインプラントの実物が見たかった
- ・手術後どんな感じになるか、知りたかった

12. 乳房再建手術の納得度と満足度

(1) 再建手術の納得度

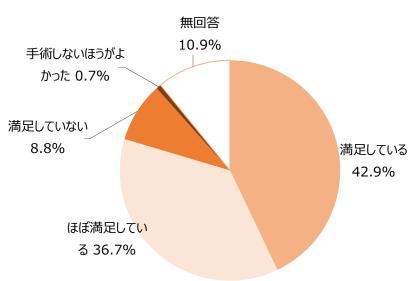
再編手術を受けるに際しての納得度では、「十分納得」と「ほぼ納得」して手術を受けた人が約85%と高い。



乳房再建手術に際しての納得度(n=147)

(2) 再建手術の満足度

乳房再建手術を受けた人の「満足」と「ほぼ満足」の合計は79.6%で、8割の人は手術結果に満足している。一方で、1割近 い人が「満足していない」「手術しないほうがよかった」と感じていることも見過ごせない。



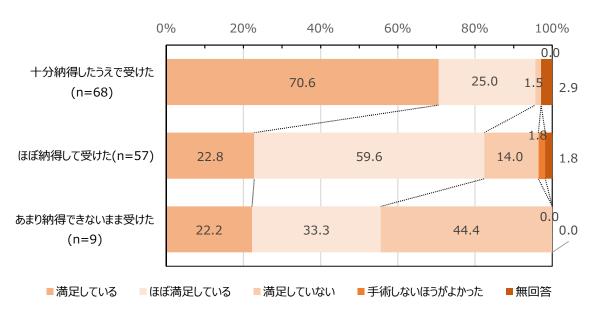
乳房再建手術の満足度 (n = 147)

●納得して再建手術を受けた人ほど手術への満足度も高くなる

再建手術を受けるに際しての納得度と、手術後の満足度の関係をみると、十分納得したうえで手術を受けた人の満足度はた おへん高く、7割の人が「満足している」と回答。「満足」+「ほぼ満足」でみると95%を占めている。

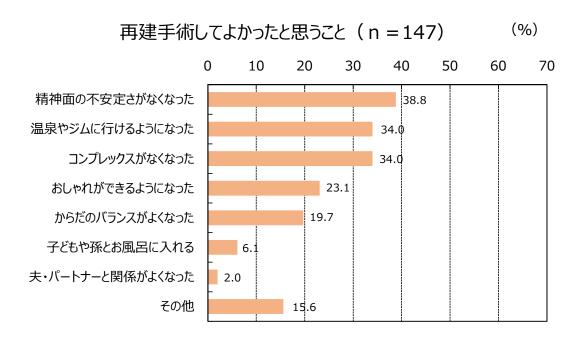
しかし、「ほぼ納得して受けた」人および「あまり納得できないまま受けた」人にみる満足度はぐんと下がり、「満足している」人は2 割強でしかない。「満足」+「ほぼ満足」の合計も、「ほぼ納得して受けた」人では8割強だが、「あまり納得できないまま受けた」 人では5割強にとどまり、「あまり納得できないまま受けた」人では45%近い人が手術に「満足していない」と回答している。手術 を受ける際の納得度と、手術後の満足度とのあいだに強い相関性があることがうかがわれる。

乳房再建手術の満足度



(3) 再建手術してよかったと思うこと

再建手術をしてよかったと思うこととして、4割弱の人は「精神面の不安定さがなくなった」をあげている。次いで「温泉やジムに行 けるようになった」、「コンプレックスがなくなった」、「おしゃれができるようになった」など、女性として自信をもって生きていくうえで、乳 房再建が精神面へのプラスの効果をもっていることがうかがわわれる。



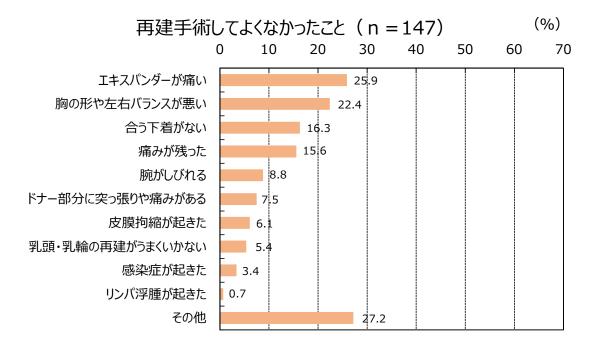
その他、自由記述では次のような意見があがっている。

- 乳がん患者と気づかれない
- ・パットの出し入れのわずらわしさが無い
- ・がん治療と同時に、乳房をつくるという前向きな意識が持てた
- ・抑うつ的にならずに済んだと思う
- ・「乳房がなくなった」ということがなかった
- ・傷だけが残る、真っ平な胸よりはいいかな・・・
- ・がんを意識しなくてすんだ
- ・娘が乳がん検査について興味をもってくれた
- 痛い
- ・パッドを入れずにすむので着替えが楽になった

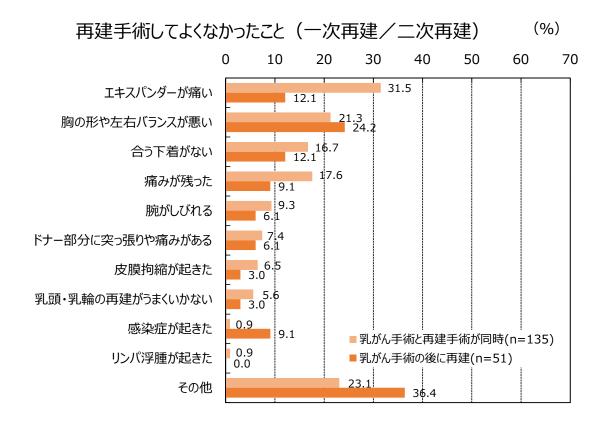
- ・夏場、パットを入れた時のムレがなくなった
- ・好きな下着を着用できるようになった
- ・社会復帰が早くできた
- ・再建することで希望が持て、少しのふくらみがあることで喪失感 が少なかった
- ・リンパ浮腫が治った
- ・着衣状態の見た目が整う
- ・パットがずれた落ちたという不便がない
- ・全体にはほぼ満足だが、良かったと思うことは少ない

(4) 再建手術してよくなかったこと

再建手術してよくなかったことは、「エキスパンダーが痛い」、「胸の形や乳房の左右バランスが悪い」、「合う下着がない」、「痛み が残った」をあげる人が多い。インプラントに入れ替えるまでのことではあるが、「エキスパンダーが痛い」は4人にひとりがあげている。



これを、一次再建と二次再建の別に集計したものが次のグラフである。両者で大きな差が出たのは、「エキスパンダーが痛い」、 「痛みが残った」である。他にも、「腕がしびれる」「ドナー部分に突っ張りや痛みがある」など、手術に伴う不具合を訴える人は一 再建の人のほうが多い。二次再建の人は「胸の形や左右バランスが悪い」など、仕上がりを気にする傾向があるようだ。



再建をしてよくなかったことの「その他」回答については、自由記述において次のような意見がみられた。年齢を問わず、異物感や 傷あとに不満を感じている人が多いようだ。

- 傷あとが残った
- 違和感がある
- ・常に異物感がある。筋肉が動くとつっぱる
- ・自家組織のドナー部分に違和感がある
- エキスパンダーの扱いに気を遣う
- ・エキスパンダーが不自然な位置にある
- ・形がいびつなので再手術したい
- ・再建した胸の形が不満
- ・再建の過程で精神的に追い込まれ、相談できるところがない
- 合う下着が少ない
- ・服装が限られる
- ブレストバンドが痛くてムレる

- ・重いものを持つと、翌日に筋肉痛のような痛みが出る
- ・インプラント側は動かないので、着けたい下着がフィットしない
- ・ケロイドがある。表面がデコボコしている
- 乳頭がつぶれている
- 身体の中にあるのに冷感がある
- ・皮膚の表面が冷たい
- ・大胸筋の下に入っているので胸から肩・背中にかけて異物感
- ・ドナー部分に傷が残っている
- ・気持ちの問題だが、再建したらもとに戻ると勝手に期待してい たので出来上がりに愕然とした
- エキスパンダーがときどき痛い

-以上-

IV. 記述式回答

以下は、アンケート調査票の末尾に「乳房再建手術」に対する回答者自身の気持ちや考えを自由に記入してもらったなかから 抜粋し整理したものである(文意を損なわない範囲で編集した)。

昨年度の調査では、「乳房再建手術」を受けることに対して不安を感じるという内容の記述が目立ったが、本年はそうした声も もちろんあるが、再建手術の普及や技術革新に伴う社会的な環境の整備や意識の変化を求める意見が多いように感じられる。 具体的には ①脂肪注入をはじめあらゆる術式が保険適用の対象となってほしい、②再建手術を理由に仕事を休みにくいので、 乳房再建までが乳がん治療だという認識が広がってほしい――という内容の記述がやや目立った。

①のような声が目立った理由については、セミナー参加者は総じて新しい情報に敏感であり、セミナーの講演でも脂肪注入など の最新技術と、その普及に伴う問題点として保険適用の話に触れられる機会が多いため、参加者の間にもこうした関心や問題 意識が醸成されたためと考えられる。また②の背景にあるのは、「乳房再建手術」はぜいたくなことで、それを理由に堂々と病休 を取ることが難しいという現実的な問題である。これは乳房再建をめぐる古くて新しい課題でもあり、この問題がなかなか解決し ていないことをうかがわせる。

総合的に、参加者の多くは「乳房再建手術」についてますます豊富かつ高度な情報を得るようになっており、多くの情報から自 分に必要なものをきちんと取捨選択し、よりよい手術を受けたいと希望するだけの力をつけている。そうしたニーズに応えられるよう な情報の提供がますます必要になっているといえそうだ。

●「乳房再建手術」に対する意識や認識の変化(自由回答)

1. 「乳房再建手術」に対する意識や認識の変化(セミナーに参加して)

- 再建手術に対する不安や怖さが軽くなりました。 1
- 2 温存手術でも再建(補正のための脂肪注入など)できることがわかったし、いろんな新しい方法があるんだなと改めて 知ることができました。
- 温存が第一選択だと思っていましたが、全摘という選択でも OOL が変わらないで生活ができると感じました。 侵しゅう 3 性もより低くなっているとのことで、前向きに考えてみようと思います。
- 全摘手術を受け、抗がん剤治療を経てエキスパンダーも無事入りましたが、治療が辛くて、この上再建でまた入院した 4 りすることが心配で、再建を希望しなければ良かったかも・・・と思っていましたが、セミナーの講演と美しい写真を見てあ のように再建したいと思いました。
- 医療の進歩だけでなく、患者の意向を組み込んだ治療へと変わってきてると聞き大変心強く思いました。罹患してはい 5 ませんが、身近に乳がん患者さんがいるので、具体的にどんなことをサポートしていけばいいのか考えていきたいと思いま す。

妻が乳がんと診断されてから、乳がんと乳房再建について色々と勉強しています。先生方の説明がとても分かりやすく、 6 経験者の方の話も聞くことができて良かったです。来場している人はほとんど女性でしたが、家族もよく理解することが大 切だと思うので男性も一緒に聞くことが重要だと思いました。

2. 『乳房再建手術」を受けることへの不安・迷い

- エキスパンダーを入れている時間が長くて、だんだん気分が落ち込みます。一度再建してもまた手術する人が多いことに 1 も驚きました。長い戦いだなと思いました。
- 2 インプラント挿入後の胸の痛みがどれ位いつまで続くのか気になっています。
- 3 痛み、見た目がどのようになるか不安。
- お腹からの再建予定ですが、30~40 cmの傷の痛みがもっとも負担と聞くので、この痛さで精神的に参るような気がし 4 て今から不安です。
- 全摘から放射線照射を経て、インプラントでの再建は難しいとのことで、自家組織でしか再建の道がないようです。ハー 5 ドルが高くなった気がしています。
- 担当医師からは温存をすすめられていますがまだ迷いがあります。初期なので温存でもよい気もしますが、今日のお話 6 をきいていると再建に心が傾き迷っています。
- 7 一元通りの胸にはならないと言われてますが、これ以上落ち込まないように、左右差があまり出ない再建をしてほしいと思 います。
- 体感会で体験者のお話を聞き、傷がキレイな方もいてビックリしました。再建手術をして前向きになれる気持ちになると 8 思いますが、やっぱりまだこわい気持ちもあります。
- 同時再建のリスクがあまりきちんと当事者に伝えられていないように思う。 9
- 10 左右全摘なので、注水が何ミリリットルといわれても仕上がりのイメージがわかず不安です。
- 11 - 温泉やプールなどで他人や子供の目線が気になり、再建を考えてはいるものの、入院期間や痛み、費用、子供にどう 話すかなど不安要素が多く、踏み切れないまま年月が経過しています。今日のお話を聞いて少し勇気をもらいました。
- 12 4 年ほど悩み続けています。 術後 5 年をめどに再建したい気持ちはあるのですが、予約をとるのが大変と聞き、行動す ることに躊躇してしまっています。
- 13 |地方での再建への道ははてしなく遠いです。

3. 医療関係者とのコミュニケーション、再建手術の前にほしかった情報

- 1 乳がんと診断されたとき、すぐにも再建についての情報がほしかった。治療に専念することが一番と思っていたが、再建 できることをもう少し早く知ることが出来たら、術前や術後にあんな悲しくなかったかもしれない。相談できる人、体感で きる場所が病院にほしかった。
- 2 悩んでいるときに、自分に合った方法のアドバイスが欲しい。決めてからも、それで良かったと思えるカウンセリングが欲し
- 3 女性にとっては大事な手術です。再建手術についてよく理解し、どの術式が適切なのか担当の先生とよく相談してから 決定することが重要であると認識しました。
- 4 医師によって再建についての考え方が全く違うことがある。シリコンは安全性が確立されていないという医師もいれば、 安全だという医師もいて戸惑ってしまう。

- 5 医師も看護士さんも、みな術前は「あなたはキレイにできます」と一様におっしゃいましたが、「キレイ」の基準が患者によ って異なることを、患者だけでなく医師、看護士ももっと歩み寄るって認識する必要があるのではないでしょうか。私のエ キスパンダーを入れた医師は丁寧ということで評判のいい方ですが、初診の 15 分で早口に一方的に説明されただけ でした。手術の数も多い医師で、皆さんどのように「キレイ」の価値観の共有に至っているのかを知りたいです。ぜいたく な悩みなのかとも思いますが・・・。
- 医療者は男性が多く、女性特有の細かい心理を理解してもらえないでがっかりすることが多い。それが術後の不満→ 6 痛みにつながっているような気がしてなりません。心の不満が解消できたら、医学的な成功度とはまた違う意味での満 足があってもっとハッピーになれると思うのですが。
- 7 再建方法の説明は他でも手に入るので、実際に手術をするための施設選びのポイントを教えてほしいです。失敗例を 見ることも必要かと思います。
- 乳がんの術式を選ぶときに、再建後の写真を見せてもらえず、イメージができなかったので、温存手術をしました。今日 8 はたくさんの写真を見せていただけて、とても参考になりました。
- 9 全摘+腋窩リンパ節廓清を経て再建しましたが、傷に不満が残りました。主治医から具体的な話を聞くことができれば イメージできたと思います。症例写真をみせてもらえばよかったと後悔しています。
- がん治療と再建の両方について、希望を満たしてくれる病院を探すのが個人ではなかなか難しく、検討の目安になるよ 10 うな情報があればよかったと思います。
- 11 乳頭乳輪再建の情報が少ない。

4. 乳房再建手術の技術革新や環境整備への期待

- 1 乳がん治療が必要になった最初の時点で、放射線治療の実際や、再建手術の実際について知ることのできる場所や 体制が確立されてほしいです。そうした情報がまったく足りていません。
- 再建前の患者さんたちが相談できる場は多いのですが、術後の患者さんたちがつどう場所は少ないと思います。下着 2 のこと、生活のこと、いろいろな悩みがあるので、そのような場の提供が大切だと思います。
- 3 乳がんがわかって手術するまでは嵐のようで、再建について考えることすら難しかったのですが、あとで落ち着いて考える と、いろいろ悩みが出てきます。癌とはまた別の悩みで、相談する人もなく、また生命に関係ないぜいたくな悩みでもある ので、再建について相談できる場所があるといいですね。
- 全摘手術を受けた人のうち、何割が再建を受けているのかといった具体的なデータが入手しづらいと感じます。また、二 4 次再建の場合は病院探しも大変で、乳腺と形成の先生の連絡が早くうまくいくといいと思っています。
- これからエキスパンダーを入れる手術を行いますが、がんの治療で会社を休むときより、乳房再建で休むことのほうが会 5 社への言いづらさがあり、他人の目が気になります。がんを取るだけではなく、再建までが治療だと世間に知ってもらいた い。もっと理解がほしいです。
- 全摘手術のときは、がんを治すことが目的だから手術も入院もやむをえないことだと周囲に理解してもらえるし、自分も 6 そう思えるが、再建手術は自分のエゴのためという感じがあってあまり堂々と言えない。仕事も休みにくい。乳房再建ま でががんとの治療だということがもっと理解してもらえるようになるといいのにと思う。
- 7 放射線の照射後でも、リスクのない乳房再建手術ができるようになるのを希望します。

- 日本もヨーロッパやアメリカのように患側と共に健側に手術をしても(整容性を保つため)保険の適用になると良いと 8 思います。シリコンインプラントが保険適用になってまだ日は浅いですが、すべての再建方法について費用面でのハード ルが下がるとよいと思います。
- 全ての手術が保険診療として認可されることを望みます(タトゥーも含めて)。 9
- 乳房再建は美容整形ではなく治療として位置付け、アフターフォローしていく事が当たり前だと考えます。脂肪注入によ 10 る手術が保険適用になっていないのは全く遅れているというか、認識がなっていないというべきでしょう。早期実現のため に医師は学会での発言・動きを強め患者自ら声を結集する事も大事なのではないでしょうか。
- 一日も早く脂肪注入の保険適用を望みます。 11
- 12 |脂肪幹細胞による再建も保険適応になれば再建したいです。
- 脂肪注入による再建が多くの病院で実施できるようになってほしい。保険も適用になってほしい。 13
- 脂肪注入だけで再建できたらいいと思っています。やってるところもあるので主治医に相談したが、「脂肪が吸収されるこ 14 とも多い」と言われ、もう一度考えることにしました。費用だけでなくそのデメリットも教えてほしいと思います。保険がきか ない点も躊躇する理由です。
- 15 |どの病院で診察を受けるときも、3 D シミュレーターで再建後の胸を見られるようになるといいなと思います。
- 16 | 家庭の事情で 3 日までの入院しかできません。入院期間が短縮されれば再建も考えたいのですが、現状では部分切| 除+放射線治療までとなりそうです。もっと外来で対応頂ける部分が増えるとよいのですが。

5. 「乳房再建手術」を受けてみて(再建経験者)

- 1 胸をなくして悲しかったけれど、乳房再建したことで女を取り戻した感じがして嬉しかったです。
- 乳房を再建して前を向いてリスタートできています。再建のことを多くの同病の方に知ってほしいと思います。 2
- 3 手術を受ける直前まで悩みましたが、終わってしまってからは手術を受けて良かったという思いだけです。
- 乳房が下垂しているのでどうしても左右のバランスが悪いです。インプラントで再建した直後は、精神面の不安はなかっ たのですが、時間が経つにつれ乳頭の位置がずれてきてバランスが悪くなってきています。ただ下着をつけると、服の上か らではあまりわからないので気にせず生活はできています。
- 私は手術から9年目になります。インプラントは永久だと思っていましたが、破損がみつかり、今後入れ替え手術を受け 5 る予定です。説明は受けていたのだと思いますが、ちゃんと理解していなかったようです。
- 6 手術から5年が経過しました。温存で、見た目ではそれほど左右差はないように見えると思うのですが、鏡の前に立つ と「違うなぁ・・・」といつも思ってしまいます。

6. これから乳房を再建することへの期待(未経験者)

乳がんと診断された時本当に目の前が真っ暗になり、これからどうなるのかと思いましたが、数年前から再建手術にも 1 保険適用になるということが分かり、それだけで何か希望が湧いた気持ちになりました。子供とまた温泉にも行きたいし、 自分の好きなファッションもこれからも沢山楽しみたい!自分にも自信を持って生きていきたいと思っています。自家組 織での再建を希望しており、不安がないといえば嘘になりますが、胸がなくなるという大きな不安を取り除いてくれるもの です。普通にまた娘と温泉へ行けることを目標に、今後の手術、治療に向き合いたいと考えています。

-以上-